

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
身体障害作業療法治療学演習		必修	2	3	前期	
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー		
小沢 健一 他	C305	k-ozawa		金曜日 14:40~16:20		
授業の目的・概要	この演習では、これまでに修得してきた身体障害領域における各疾患の医学的知識・評価法に基づいて治療目標・治療計画が立案でき、基本的な治療手技の実践と知識の習得が目的となる。概要として、講義で基本的知識を習得し、演習や実技で手技を習熟し、グループワークを通じて理解を深める。					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input checked="" type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> デモ・ディスカッション・デモパート <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク		
学習上の助言	治療・訓練は根拠をもって、安全かつ適切になされなければならない。それには知識・経験が必要となる。講義で教授できる手技・知識は「最低限」であるため、能動的に学習してほしい。					
教科書	標準作業療法学・専門分野「身体機能作業療法学」第3版：山口昇・玉垣努 編, 医学書院 / 2016					
参考書	標準作業療法学・専門分野「作業療法 臨床実習とケーススタディ」第3版：濱口豊太 編, 医学書院 / 2020					
外部教材	特になし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	グループ内で適切な役割分担を行い積極的に討論へかかわることができる。			HSU(1)~(5)、OT(1)~(3)		
②	さまざまな疾患、障害に対しその機序を理解し説明できる。			HSU(2) (3)、OT(1) (2)		
③	さまざまな疾患、障害に対して作業療法を適切に実施できる。			HSU(2) (3)、OT(1) (2)		
④	作業療法目標を達成するための作業療法を実施できる。			HSU(2) (3)、OT(1) (2)		
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)			
1.2	脳血管障害の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 錐体路障害、片麻痺、筋緊張異常、痙性) [担当: 小沢]	講義・演習・実技	教科書 p99-109、162-184 を理解しておくこと。指定した課題を行う。	5		
3.4	脳血管障害の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 小脳系、脳幹系: 四肢麻痺、失調、嚥下障害) [担当: 小沢]	発表・講義・演習・実技	教科書 p110-123、162-184 を理解しておくこと。	1		
5.6	脳血管障害の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 視床、多発性、感覚障害、基本動作) [担当: 小沢]	講義・演習・実技	教科書 p63-69、162-184 を理解しておくこと。	1		
7.8	脳血管障害の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: ADL 訓練、食事、更衣) [担当: 小沢]	講義・演習・実技	教科書 p63-69、162-184 を理解しておくこと。	1		
9.10	神経変性疾患の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 固縮、姿勢反射障害) [担当: 小沢]	講義・演習・実技	教科書 p110-123、352-374 を理解しておくこと。	1		
11.12	脊髄疾患の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 拘縮、車いす、移乗動作) [担当: 小沢]	講義・演習・実技	教科書 p191-214 を理解しておくこと。	1		
13.14	上肢の末梢神経損傷の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 知覚再教育、巧緻動作訓練、スプリント) [担当: 岡]	講義・演習・実技	教科書 p123-130、261-278 を理解しておくこと。	1		
15.16	上肢骨折の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 拘縮、ROM 訓練、家庭内訓練) [担当: 岡]	講義・演習・実技・討論	教科書 p76-86、216-226 を理解しておくこと。	1		
17.18	肩の痛みを伴う疾患の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: ROM 訓練、筋力訓練、生活指導) [担当: 岡]	講義・演習・実技	教科書 p76-98、232-236、291-297 を理解しておくこと。	1		
19.20	大腿部頸部骨折の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: ADL 訓練、生活指導) [担当: 岡]	講義・演習・討論	教科書 p227-231 を理解しておくこと。	1		
21.22	腰痛症の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 持久力増強訓練、生活指導) [担当: 岡]	講義・演習・討論	教科書 p327-331 を理解しておくこと。	1		
23.24	廃用症候群や内部疾患の障害像や経過を学習し、その治療を経験する。 (keyword: 呼吸循環器系、体力向上) [担当: 小沢]	講義・演習・討論	教科書 p130-136 を理解しておくこと。	1		

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

25.26	事例基盤型学習（評価から目標の抽出）	演習・討論	グループ内で目標の抽出を行い、まとめる。	5			
27.28	事例基盤型学習（目標から治療手段の選択）	演習・討論	グループ内で治療手段の選択を行い、まとめる。	5			
29.30	事例基盤型学習（治療の発表）	発表	治療実技の発表準備を行う。	5			
試	定期試験 達成度評価・評価ポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	0	40	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	10	0	0	60
	思考・推論・創造する力	10	0	5	0	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①		学期末の定期試験(筆記試験)を実施して評価する。(60%) 試験は授業で学んだ教科書、資料等に基づく問題を出題し、理解度を問う。 問題(回答)形式は、記述・穴埋め・選択式である。			試験は各自に返却し、解説する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	1~2回に、脳血管障害についての課題を提示。 パワーポイントでまとめ、発表。ルーブリックにて評価する。(20%) 25~30回に、事例に対する治療の選択を行い実施する。 パワーポイントでまとめ、治療の一場面を実際に行う。 ルーブリックにて評価する。(20%)			その場でコメントを行いフィードバックする。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	岡 猛						
教員の実務経験	担当教員は作業療法士として5年以上の臨床経験がある。						

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

実践的授業の内容	臨床における最新情報とともに、テキストと併せて臨床における治療で得た知見に基づき、作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。
そ の 他	演習や実技を行う。実技の際は実習着・靴を着用のこと。 受講態度に問題のある学生は退室してもらう。 臨床医学（神経内科学、整形外科、内科学、高次脳機能学）の知識が必要となるので、事前に復習しておくこと。 構内での受講に際して、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 問題がある場合は授業の参加を認めない。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によってシラバスの変更がありうる。